



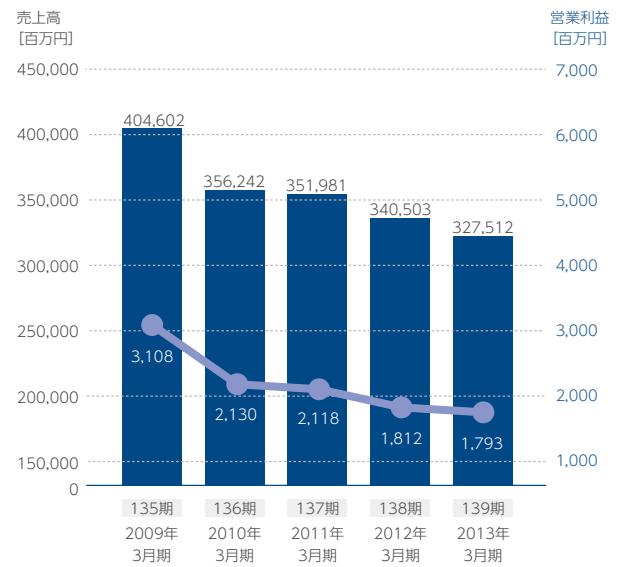
# CSR REPORT 2013

KOKUSAI PULP & PAPER CO.,LTD.

## 事業概要

|       |                                               |
|-------|-----------------------------------------------|
| 商号    | 国際紙パルプ商事株式会社<br>(KOKUSAI PULP&PAPER CO.,LTD.) |
| 資本金   | 34億4,278万円                                    |
| 本社所在地 | 東京都中央区明石町6番24号                                |
| 設立    | 1924年(大正13年)12月1日                             |
| 従業員数  | 715名<br>(2013年(平成25年)4月1日現在)                  |

### ・連結売上高推移



## 営業拠点(国内・海外)



## 編集方針

「CSRレポート2013」は、環境貢献を中心とした社会的責任にかかわる当社企業活動の年次報告書です。本年度は新たに始動したCSR体制や環境・社会貢献活動、事業活動を分かりやすくご報告するよう心がけて編集しています。

### 【報告対象範囲】

一部を除き、東京本社および国内営業拠点における社会・環境活動を主体に編集（関連会社・海外子会社は対象から除く）

### 【報告対象期間】

2012年度（2012年4月～2013年3月）における実績数値を中心に編集（2013年4月以降の活動についても言及）

### 【参考にしたガイドライン】

- 環境省「環境報告ガイドライン2012年版」
- GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第3.1版」

### 【発行】

2013年9月（次回は2014年9月予定）



代表取締役社長

田 辺 円 × KPP社員ダイアログ ..... 03

CSR経営を強化し、より社会から信頼される企業へ

CSRマネジメント ..... 07

社会から評価を受けて  
持続的成長を遂げるために

CSR体制

コーポレートガバナンス

コンプライアンス

内部統制

リスクマネジメント

事業継続計画

情報セキュリティ

社会性報告 ..... 11

多様な人材が輝き、  
社会に貢献するために

雇用・人事

地域社会とともに

環境報告 ..... 15

持続可能な社会を  
次世代につなぐために

資源の循環と保護に向けて

低炭素社会の実現

ステークホルダーとのコミュニケーション

ステークホルダーダイアログ ..... 21

豊かな環境を未来へー  
心を育み、持続可能な社会を築く

# CSR経営を強化し、 より社会から信頼される企業へ

国際紙パルプ商事グループは、経営ビジョンを「GIFT+1」と定め、事業活動を通じてより良い社会の形成に貢献することを目指しています。2024年に100周年を迎える国際紙パルプ商事グループが取り組むCSR経営について、代表取締役社長 田辺 円と社員が語ります。

## 創立100周年に向けた 「GIFT+1 2024」

**吉原** 私は就職活動で「GIFT+1」を知り、“贈り物”という意味が込められた経営ビジョンに共感しました。昨年発表された中長期経営計画にもこの「GIFT+1」が使われていましたね。

**田辺** 経営ビジョンは、会社の進むべき方向を示す道しるべです。当社が企業活動を通して目指す4つの目的である「Globalization」「Innovation」「Function」「Trust」の頭文字をつなげた経営ビジョン「GIFT」は1996年に制定されました。その後、社会と共生しながらともに発展する企業像を明確にするため、それぞれの経営ビジョンに環境配慮を“プラス”して「GIFT+1」になりました。当社は2024年に創立100周年を迎えます。この節目を見据え、事業活動の持続的発展を目指す中長期の経営計画が「GIFT+1 2024」です。



代表取締役社長  
田辺 円

## 「創紙力」から広がる ソリューションを

**阿部** 入社以来、一貫して出版用紙に携わっていますが、少子高齢化や情報メディアの多様化が進む中で、国内における紙需要の減退を感じています。

**田辺** 確かに国内における紙の産業規模は全体的に縮小傾向にありますが、紙の存在はこれからも輝き続けることは間違いありません。ニューメディアに対する危機感を感じた時にこそ、紙の持つパワーをさらにブラッシュアップさせていく必要があります。5年ほど前から「創紙力」というキーワードを発信し、国際紙パルプ商事グループの共通用語として、我々に何ができるかを模索しながら取り組んでいます。また、書籍と電子書籍との連携など紙媒体と電子メディアの連動性を探っていくことも求められていますし、デジタル印刷の技術向上によって短時間で小ロットの印刷が可能となり、案件の規模にかかわらず積極的な提案を重ねていくことも重要です。業務を通じて変化を感じることはいくらですか？

**阿部** はい。従来の出版事業では出版社さんが紙を指定し、それを当社が供給するという流れが一般的でしたが、現在は当社独自の視点による企画提案の上で紙を供給させていただくことも増えています。新たな商材の発掘をはじめ、どのような加工をすれば良いかなど、紙の提案からコーディネートまでを含めた付加価値の提供によるビジネスが変わってきています。

**田辺** まさに「創紙力」の一環ですね。



**吉原** 私は入社以来、紙の情報提供・販売サイトである「Papermall」等の運営を手がけるWebソリューションの展開に携わっています。開発営業本部では、それ以外に循環型社会の新たなビジネスモデルとして「ecomо (エコモ)」シリーズの推進を中心とした新たなビジネスの創出に向け、日々の業務を行っています。

**田辺** 古紙リサイクルポイントシステム「タウンecomо」の全国設置店舗は100カ所を超えましたね。機密文書リサイクルシステム「オフィスecomо」も大手企業の方から好評を得ているようです。新たなビジネスモデルを創ってい



新聞・出版営業本部  
出版用紙部  
阿部直樹  
1998年入社



開発営業本部  
開発営業部  
吉原佳澄  
2011年入社

くことは重要です。例えば「Papermall」など国際紙パルプ商事グループのECサイトを通じて全国の卸商さんとながり、そのネットワークを基点にペーパーソリューションを展開させたら面白いと思います。私の夢としては、ファンシーペーパーや塗工紙など一般紙を含め、世界中の紙を「Papermall」で網羅したいですね。当社のWebサイトにアクセスいただければ、紙の購入だけでなく、紙に関する膨大な情報も入手できるように、紙と情報の供給力を強めていければと考えています。

## 経営理念

1. グローバル経営の充実と持続的な成長を目指します。
2. 社員とその家族の幸福を追求するとともに株主・顧客・取引先・地域社会より信頼される企業を目指します。
3. 循環型社会の実現と教育・文化・産業の振興に広く貢献します。

## グローバル人材を育成し、 国際競争力を磨く

**吉原** TOEIC®受験推進制度が2013年よりスタートしました。自宅で空き時間などに学べるeラーニングが完備され、スキルアップのための学習を私も始めています。



**田辺** 中長期経営計画でも、海外事業領域の拡大を目標としています。といいますのも、当社が紙業界で勝ち残るには、国内だけではなく海外を見据えなければなりません。

ん。日本の一人当たりの紙・板紙消費量は年間約220kgで、先進国ではおよそ200kg前後です。しかし、インドの一人当たりの平均消費量は年間およそ10kgであり、急成長している中国でもおよそ70kgです。世界平均が約55kgと、先進国と比べると圧倒的に低いのです。新興国においては、個人が先進国並みに消費するのは難しいかもしれませんが、少なくとも100kg前後までは上昇するでしょう。現在、世界の紙市場は4億トンほどですが、今後5億トンほどに広がると想定できることから国際競争力を高めていくことが極めて重要です。その上で、グローバル人材をどう育成していくかが当社の課題であり、世界で活躍するために、まず手段としての語学力を身につけてもらいたい。また、語学以外でも様々なスキルアップの場を会社が整えますので、社員の皆さんには時間と努力を自分に投資していただきたい。“国際”という社名に負けない、世界で活躍できるバランス感覚に優れた企業人を育てていきたいと考えています。

## 中長期経営計画 GIFT+1 2024

当社が100周年を迎える2024年を到達点としたKPPグループの指標です。当社のコア事業である紙・板紙産業が過渡期を迎える中、これからも持続的に事業活動を発展させるために、5年単位でローリングする中期計画を架け橋とした長期計画としました。基本となる経営課題を①事業・営業領域、②人材・教育領域、③環境・社会貢献領域、④財務・投資領域の4つに分け、夫々の戦略をテーマ毎に強力に推進していくものとなっています。

## CSR体制を強化し、 CSR経営を推進する

**吉原** CSR体制の構築によって、当社が目指す姿を教えてください。

**田辺** CSRの概念はこれまでも「GIFT+1」で示してきましたが、より信頼される企業を目指し、今年4月よりCSR委員会とその下部組織としてコンプライアンス委員会、リスク管理委員会、環境管理委員会、労働安全委員会を発足させました。CSR委員会が全般の審議、活動の検討を行い、4つの委員会とその下の2つの小委員会で年間の行動計画を立て、実行・検証を行いながらCSR体制の強化を推進していきたいと考えています。環境経営を推進する上では、一企業市民として地域社会とどのように共生していくかが非常に重要です。本社ビルのエントランスに和紙でつくられた仙台の七夕飾りを飾ったり、地域の幼稚園児とともに



に屋上菜園で収穫祭を楽しんだり、地域交流を図っています。また、「企業行動指標」および「社員行動基準」を見直し、企業市民としての在り方をグループ社員一人ひとりが再認識するように努めています。

**阿部** 様々なステークホルダーとかかわりながら、事業活動を行っていくことは重要ですね。そしてこれから先、社員として持つべきマインドについてもお聞かせください。

**田辺** ひとつは、“紙で生き抜く”という覚悟を持つことです。私たちは紙を原点にしている企業であり、紙から派生する複合事業やサービスを進化させていくにあたり、紙の力や存在感をしっかりと高めておかななくてはなりません。紙とともに成長する企業であるという想いを持って、事業に取り組んでもらいたいと思っています。そしてもうひとつは、紙事業や業界をとらえる際に、ズームイン・ズームアウトの視点を上手に活用していくということです。ある場面では鳥の目線でビジネスを俯瞰し、ある場面では蟻の目線で深く入り込む。様々な角度から紙をどう見るか、どうとらえるかで、新たなアイデアが生まれ、創紙力へとつながっていくのだと思います。



## 経営ビジョン (GIFT +1)

変化に即応した柔軟で創造性に富んだ事業活動推進の源となる当社の4つのビジョンの頭文字をつなげると、GIFTとなります。そして、これら4つのビジョンそれぞれに環境配慮を加えた「GIFT+1 (ギフト プラスワン)」が当社の経営ビジョンです。

英語の「GIFT」の意味は贈り物。事業活動を通して、より良い社会の形成に貢献し、次の世代へつないでいきたい。それが、当社の願いです。



4つの経営ビジョンそれぞれに  
環境配慮をプラス

- G**lobalization  
世界規模で経営を考える
- I**nnovation  
これからの紙の未来を創造する
- F**unction  
迅速で無駄の少ない流通機能を構築する
- T**rust  
社会の発展に貢献する
- +1**  
環境に配慮した企業活動を推進する



# 社会から評価を受けて 持続的成長を遂げるために

社会からの信頼。企業が持続的に成長していくために必要な信頼は一朝一夕で獲得できるものではなく、長い年月をかけ、少しずつ培われていくものです。当社はその信頼を今後も強固なものとし、皆様から評価をいただくための体制の構築と活動の推進を実行しています。

## Highlight

明確で透明性のあるCSR活動を目指し、  
体制の再構築を実施しています。

情報技術と物流機能における著しい進化の恩恵として、人・モノの移動や人と人とのコミュニケーションが以前と比べて飛躍的に容易になったことがあげられます。その結果、人・モノ・情報は地域や国の垣根を瞬時に越え、集団・組織の活動がもたらす影響はより広範囲なものになりました。当社はそのような状況を踏まえ、様々な価値観をもったステークホルダーに向けて自らの企業活動をより適切に説明するための体制構築を目指し、CSRにかかわる従来の組織を再編しました。

行動推進にあたり、当社における企業行動の基本となっていた指標を社会的要請の変化に合わせ、グループ企業全体の行動基準として新たに見直し、「国際紙パルプ商事グループ企業行動指標」として改訂、内外に公表しました（2013年4月改訂）。同時に、企業行動指標に基づく当社全役職員の行動実践の基準となる「国際紙パルプ商事グループ社員行動基準」も社内で配布されています。

## 企業行動指標

### 【国際紙パルプ商事グループ 企業行動指標】

当社は1924年の設立以来、豊かな紙文化を通じて会社と社員の繁栄と社会の発展に寄与すべく事業展開をしてまいりました。

グローバル化の中で多様な経営課題が顕在化する今日、グループ企業として法令等を遵守し、社会的責任を果たし、将来にわたり発展し続けるため「国際紙パルプ商事グループ企業行動指標」を定めました。

社内におけるCSR体制を一層充実強化し、役員、従業員一人ひとりと並びにグループ企業全体が自覚をもち、信頼を更に高め、継続的に社会貢献できる企業をめざし「国際紙パルプ商事グループ行動指標」を遵守して行動することを宣言します。

1. 「法令等の遵守」  
国内外の法令・ルールおよびその精神を遵守し、社会規範を尊重した経営を行います。
2. 「公正・公平・透明な事業活動」  
公正・公平・自由な競争に基づき、透明で適正な事業活動を行います。また、政治や行政との健全かつ正常な関係を維持します。
3. 「社会や取引先からの信頼の獲得」  
社会の発展に幅広く貢献する有用な商品やサービスを提供するとともに、個人情報・顧客情報の保護に十分配慮し、取引先・ユーザーからの信頼を高めるため、誠実に行動します。
4. 「社会貢献活動の推進」  
企業活動を通じて収益の社会への還元を努め、広く地域および社会の発展に貢献します。
5. 「積極的な企業情報の開示」  
株主を含む全てのステークホルダーに対して企業情報を適切に開示し、社会との良好かつ積極的なコミュニケーションに努めます。
6. 「国際社会との共生」  
国際社会の一員として、国際行動規範を尊重し、事業活動を通じてその地域の発展に貢献します。
7. 「職場環境の充実」  
従業員の人格・個性が尊重される健康で働きやすい職場環境の確保により、従業員それぞれのゆとりと豊かさの実現を目指します。
8. 「自然環境との調和」  
自然環境との共生・調和を図り、豊かな未来を共有できる社会の実現に貢献します。
9. 「反社会的勢力との関係遮断」  
警察等関係機関との緊密な連携を保ちながら、全社結束して反社会的勢力との関係を遮断します。

平成19年3月27日 制定  
平成25年6月25日 改訂

国際紙パルプ商事株式会社

代表取締役社長 田辺 円

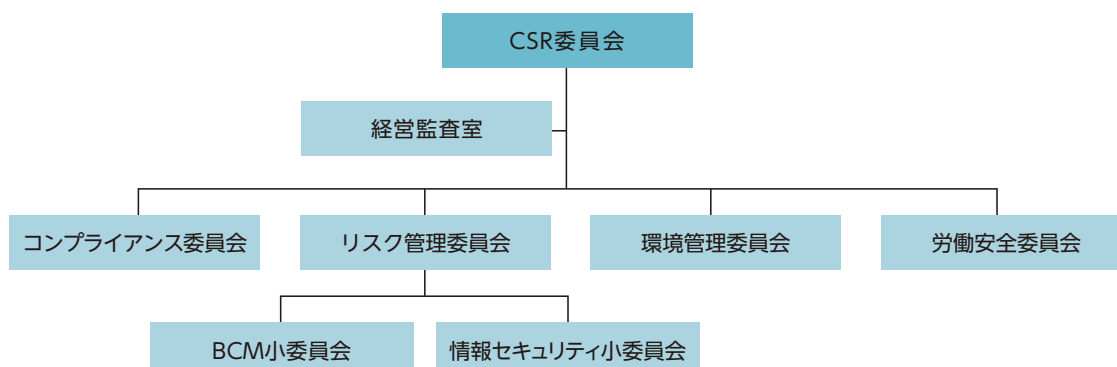
## CSR体制

2013年4月に改訂された企業行動指標・社員行動基準をもとに、CSR体制の再編を実施しています。この体制は、各課題の具体的な対応と推進を行う機関を一体運営し、持続的な企業活動推進のための改善を行うことを目的としています。全社活動を統括するCSR委員会の傘下に法令遵守等の推進・管理を行う「コンプライアンス委員会」、企業活動におけるリスク管理を行う「リスク管理委員会」、環境マネジメントシステムによる環境活動推進を行う「環境管理委員会」、労働安

全関連の推進・管理を行う「労働安全委員会」の4つの委員会を設置し、それぞれの年間課題と目標に応じた活動を推進していきます。また、「リスク管理委員会」の傘下には、持続的な企業経営にとって重要なリスクとなる情報セキュリティとBCP（事業継続計画）の対策・推進を担う小委員会が2つ設置されました（「BCM\*小委員会」、「情報セキュリティ小委員会」）。経営層が各委員を担い、各部門の担当を通して課題への対応と改善に向けた提案を行うとともに、組織全体への浸透と活動の活性化を目指します。

※BCM: Business continuity management=事業継続マネジメント

### ・CSR委員会体制図



### ・2013年度のCSRに関する各委員会の課題

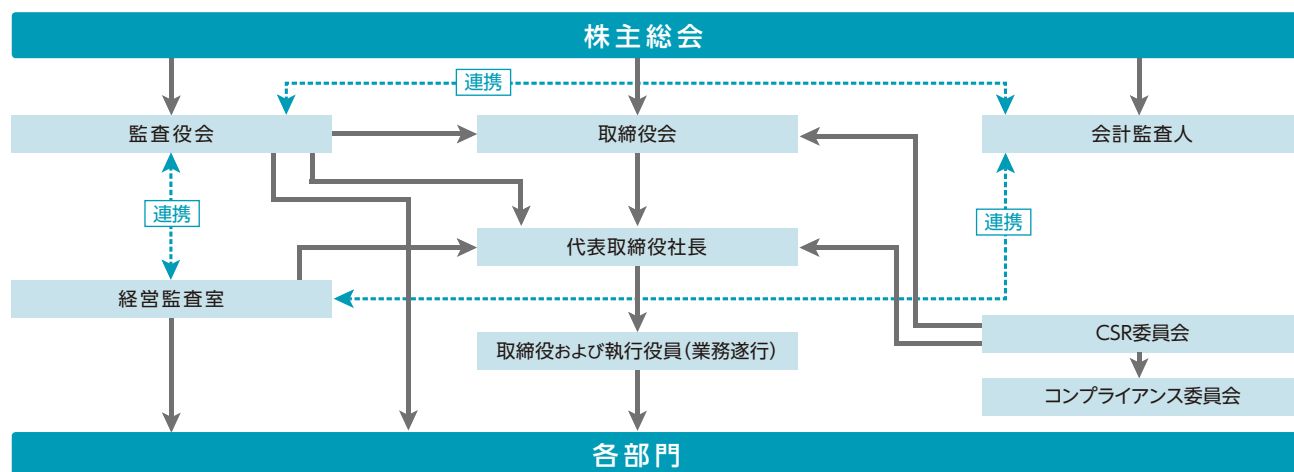
|              |                                            |
|--------------|--------------------------------------------|
| 2013年活動基本方針  | ①PDCAサイクルによるCSR活動推進体制を確立する<br>②従業員に対する周知徹底 |
| 2013年度各委員会課題 |                                            |
| 委員会          | 課題                                         |
| CSR委員会       | 全社活動の管理と社会貢献活動の推進                          |
| コンプライアンス委員会  | 法令・社内規則等の遵守徹底                              |
| リスク管理委員会     | リスク評価の実施／小委員会管理                            |
| BCM小委員会      | 全社BCPの確立                                   |
| 情報セキュリティ小委員会 | 情報（個人含む）管理体制の確立                            |
| 環境管理委員会      | ISO14001に基づく環境活動の推進と環境ビジネスの全社的推進           |
| 労働安全委員会      | 職場環境の安全と充実を目指した行動の実施と検証                    |

## コーポレートガバナンス

会社法上の監査役会設置会社の形態を採用する当社では、業務執行を監督する取締役会、取締役の職務執行を監督する監査役会によるコーポレートガバナンスの体制を構築し、監督機能の強化・経営各層の責任の明確

化に加え、経営の客観性および透明性の向上を図っています。また、経営意思決定機能と業務遂行機能それぞれの役割を明確化し、取締役会の監督機能の強化を図るため執行役員制度を導入しています。

### ・コーポレートガバナンス体制図

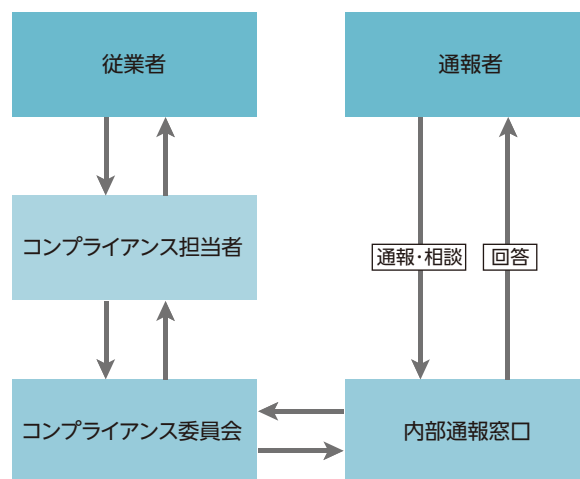


## コンプライアンス

法規制の遵守を確実にし、企業市民としてのあるべき倫理に基づく行動によって社会の要請に応えていくため、コンプライアンス委員会を設置しています。同委員会は、多岐にわたる業法やその他法令遵守を目的としたマニュアルの策定に加え、コンプライアンス研修等の開催を通して、役職員一人ひとりの遵守意識の向上に向けた活動を担っています。

当社内において法令遵守や企業倫理に反する行為があった時に、当社社員のみならず、グループ企業、家族、お取引先も含めた方々が容易に相談・通報ができる窓口（内部通報窓口）を設けています。この窓口を利用して通報を行ったことにより、通報者が当社から不利益な扱いを受けることはありません。そして、経営トップは法令遵守にかかわる重大な事態が発生した際には、速やかに社会への情報公開と説明責任を遂行し、原因の究明と再発防止に努め、厳正に対処していきます。このように当社は組織全体でコンプライアンス徹底に向けた取り組みを行っています。

### ・コンプライアンス体制図



## 内部統制

当社は業務の有効性および効率性を高め、財務報告の信頼性を確保するとともに、法令等の遵守と資産の保全を図る体制構築を目的とし、「内部統制の基本方針」を定め、内部で適用されるルールや業務プロセスの整備に努めています。統制活動はリスクの評価と対応、情報の識別・把握・処理とモニタリングおよびITへの対応を基本とし、CSR委員会のもと、4つの委員会と2つの小委員会において活動を推進しています。

## リスクマネジメント

持続的な事業推進を妨げる様々なリスクの適切な管理によって組織運営が行われることは企業の経営そのものであると当社は考えます。企業経営を妨げるリスクは近年多様化しつつあります。当社はリスクを10に大別しています(信用リスク・投資リスク・市場リスク・情報リスク・事務リスク・システムリスク・法務リスク・カントリーリスク・災害リスク・その他リスク)。そして、CSR委員会の下部組織にリスク管理委員会を設置し、これらのリスクを抽出・特定し、その評価と対応策の周知徹底を推進させる活動を開始しています。対応するリスクの中でも当社が特に重要とみなす災害時の事業継続にかかわる管理・対応と個人情報を含む情報管理に関してはそれぞれ「BCM(事業継続マネジメント)小委員会」、「情報セキュリティ小委員会」を設けて、継続的な対応計画の更新と検証、想定される事象の予防や訓練等を行っています。

## 事業継続計画

日本全国で一時的な経済停滞を引き起こし、製品供給体制の変化や各お取引先の変化など、様々な想定外の事態に直面した2011年3月の東日本大震災時を教訓に、災害等の発生によって事業活動が一時的に停滞した場合にその影響を最小限に留め、早期回復を図り事業を継続させる目

的でBCP(事業継続計画)を策定しています。リスク管理の一環として設けられたBCM(事業継続マネジメント)小委員会は、このBCPを当社事業の態様に合わせて常に最新のものに更新し、社員による想定訓練等を行うなど、不測の事態に備えた活動の管理と推進によるBCMの全社浸透の役割を担っています。

尚、当社BCPにおいては①従業員およびその家族の安全と安心を守り、②当社の信用と③建物・設備を守りながら④地域社会の生活と経済活動に貢献するという4つを基本方針とし、自然災害による影響以外の側面においても同様に検討を行っていきます。

## 情報セキュリティ

IT技術の発達とともに、近年における情報活用面(ICT)での利便性向上にはめざましいものがあります。しかしながら一方で国や企業を問わず、情報の改ざんや漏洩などの事故が絶えません。当社は、リスクマネジメントの一環として、情報の適切な管理の推進を目的とする情報セキュリティ小委員会において、具体的な管理策の策定と社内徹底のための教育を行っています。個人情報管理については、別に当社における個人情報保護の方針を開示し、管理徹底を確実にするとともに、B to Cビジネスの事業部門においては、同部門を認証範囲とするISO27001に基づいた情報セキュリティマネジメントシステムを構築し、外部審査機関の年次サーベイランスを受けて認証維持を行っています。



ISO/IEC27001:  
2005開発営業本部  
認証登録番号IC10J0303  
(登録日2010年6月25日)

# 多様な人材が輝き、 社会に貢献するために

性別や年齢、国籍に関係なく一人ひとりが能力を発揮し、ライフステージに合わせていきいきと働ける職場づくりに取り組んでいます。公正な制度や仕組みのもと、安心して働きがいのある職場環境を整備し、社会に貢献できる人材の育成に注力します。

## Highlight

### 東北子ども支援

当社は東日本大震災被災地に関する社会貢献活動として2012年度から3年間にわたり、東北大学「震災子ども支援室「Sーチル」」に支援を行っています。

“Sーチル”には「3月の震災後の相談のSから始まり、子どもたち(チルドレン=チル)の健やかな成長と幸せを支えることを目指すS」の意味が込められています。震災にあった子どもたちの心のケア(震災孤児・遺児、大切な人やものをなくした子)や保護者・里親の相談、支援など行政とは違った柔軟な対応が図れると考え、当社はこの支援活動に賛同しました。



支援感謝状授与式



シンポジウム報告書

## 雇用・人事

### ○人事制度

商社においては活力ある企業風土の担い手は、一人ひとりの社員です。従って社員は最も重要なステークホルダーであり、貴重な資産（人財）であると考えています。社員それぞれの能力・スキルを最大限に発揮させ、その成果に基づいて公正に評価する制度を導入しています。社員自らの意識・行動の変革を促しつつ、モチベーションの高揚を図るため、的確なフィードバックを通じて評価の透明性・公平性・納得性を高めています。達成結果の追求だけではなく、個人の能力のレベルアップと企業活動の改善につながる機会を提供する制度です。

### ○研修制度

企業の力は現場の総合力であるという考え方のもと、社員一人ひとりの力を最大限に高め、新たな経済状況、事業環境に柔軟に対応できる能力を引き出すため、自己啓発支援としてeラーニングを2013年度より導入しました。次世代リーダー・グローバル人材育成に向けての強化、新入社員研修に始まり、現場でのOJT教育、各階層別の社内外での研修など、それぞれのステップに対応した教育を通して、自立を促す内容となっています。また、グローバル化する事業展開に対応し、国際的なビジネスマインドの育成を目的とした海外研修制度を設けています。



### ○継続雇用制度

当社は、長年培った能力・スキルを確実に次の世代につないでいくため、定年を迎えた社員を継続雇用する制度を設けています。国の年金制度とリンクし、2025年4月以降は「65歳までの雇用」となります。この制度運用を継続しつつ、今後さらに進展する超少子高齢化社会における「働き方」について、検討を行っています。

### ○ワークライフバランス

心身ともに健康に働けるように、当社は様々な施策を行っています。年次定期健康診断に加えて、35歳以上の社員を対象とした成人病検診の実施や外部の専門カウンセラーによる社員と家族の心と身体との健康相談室を設けるなど、問題発生を未然に防止する体制が整っています。

生産性向上と健康管理の観点から、2009年度から週2回の「ノー残業デー」を実施し、適正な労働時間管理に努めています。これにより、業務内容の見直しや問題点の改善を図り、社員の生活充足度向上に取り組んでいます。また、育児や介護のための休業や短時間勤務制度など、社員が仕事と生活を両立しながら安心して働ける環境づくりに努めています。

高齢化社会により要介護高齢者が急増する中、誰もが介護に直面する可能性があることから、仕事と介護の両立を支援するために、「介護セミナー」を2013年7月に開催しました。外部講師を迎え、働きながら介護に向き合うための心構えや介護の基礎知識、介護保険制度について学びました。

### ○女性活躍推進

人材の多様化が進むなか、近年、社会・企業では女性の登用、活躍機会の拡大について関心が高まっています。性別ではなく個々人の意欲や能力に応じて処遇する環境づくりや人材育成が急務であり、女性活用は、今や企業生命線といわれています。当社でも女性の活躍の場を広げ、働く生きがいと能力向上に向けた活動に取り組んでいます。この推進活動は、2011年度にスタートし、創造性のある事業改革に向けた提言や意見交換が行われました。

2012年度からは、さらに役割と活動内容を明確化し、職層や年代層に分かれ、制度改善や意識向上に向け、具体的なテーマを設定し取り組んでいます。



推進メンバーによる中間報告会の様子

## 地域社会とともに

### ○エコキャップ活動状況

NPO法人エコキャップ推進協会による「ECOCAP推進活動」は、ペットボトルのキャップを集めて世界の子どもたちにワクチンを贈る活動です。当社はその趣旨に賛同し全社でキャップの回収を行っています。活動を始めて4年、2013年6月現在、全社の累計で301,628個のキャップを回収し、377名分のワクチンになりました。

### ○家族の会社見学会

社員家族の職場に対する理解向上の支援策として、「家族の会社見学会」を実施しています。3回目の実施となる2013年度は、東京に加え、大阪・名古屋支店でも開催しました。会社から「社員証」と「名刺」をもらった子どもたちが、実際に父親や母親が働いているフロアなどを見学しました。また、開催3拠点を結んだ「テレビ会議」を行い、大いに盛り上がりました。



参加者による集合写真（大阪支店）



仕事体験の様子（名古屋支店）

### ○家庭の節電キャンペーン

原発停止の影響から2012年度も夏の電力ひっ迫が予想されたため、社員とその家族による環境貢献活動の拡大を目指し「家庭の電力ダイエットキャンペーン」を実施しました。キャンペーンには全拠点の役員・社員の半数以上が参加し、7月から9月までの家庭における節電に努めました。その結果、参加全世帯で前年比4.2%の節電を達成しました。

### ○地域社会への貢献活動

当社には約13年前に視覚障害で通勤困難となり、現在は在宅勤務で業務に携わる社員がおります。会社には月に1～2回ほど出社し、若手社員の相談にのるなど、メンタルヘルスケア活動を行っています。また、社外でも積極的に社会貢献活動に取り組んでいます。

#### ●地域小学校への貢献

同社員の長年の活動として、埼玉県内の小・中学校や高校で「障害と向き合う」というテーマで約10年にわたり講演をしています。2013年6月、小学校4年生を対象に視覚障害について講話を行い、目の不自由な人に出会った場合のお手伝いの仕方などを分かりやすく説明し、障がい者への理解を深めてもらいました。

「目が不自由になって何もできなくなると思ったが、努力をすれば必ず光は見えてくる。『今日の努力は明日の成功』と、子どもたちにメッセージを残し、講演を終えました。



社員による講演

## ○環境教室への支援(富士北麓)

2012年度も当社は一般社団法人環境アスリート協会が主催する「アスリートと学ぶ環境教室」に賛同し、運営サポートを行いました。教室は富士北麓公園で11月に開催され、地元の小学生ら約600名が野球、サッカー、陸上・ウォーキングの3部門に分かれ、アスリートたちによる実技指導を受けた後、環境保全の大切さを学びました。



## ○仙台七夕飾りを展示

“震災を忘れない”を合言葉に2012年から全社で「仙台七夕まつり」にちなんだ飾りを設置(6月末～8月9日)。各支店にはミニチュア、本社には約4mの長さの実物を飾りました。

一人ひとりに被災地復興への祈りを新たにしてもらうとともに、展示期間中には近隣の幼稚園児を招待し、地域の方々とのコミュニケーションにも役立っています。



七夕の飾りつけをする園児



訪問を受けた園児との記念撮影

## Column

### ●ブラインドセーリング

ブラインドセーリングは晴眼者と視覚障がい者がひとつのヨットに同乗し、チームメイトとして自立と責任を持ちセーリングライフを楽しむことを目指しています。

今年で8回目となる世界的な視覚障がい者のヨットレース「2013 IFDSブラインドセーリング世界選手権大会」が神奈川県三浦市で開催されました(5月24日～6月1日)。アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドから13チーム、日本から6チームが参加し、連日見ごたえのあるレースが展開されました。

このレースは、2人の視覚障がい者が舵取りとメインセイルを操り、2人の晴眼者がジブセイル(小さい帆)と視覚障がい者の眼になって、状況を乗員に伝え、互いに協力しながら操船します。

今回の大会では、当社の協賛により出場艇2艇のメインセイルにKPPロゴマークが入ったほか、大会パンフレットに広告を掲載することで、大会運営をサポートしました。



メインセイルにKPPロゴマークを入れた出場艇

# 持続可能な社会を 次世代につなぐために

地球に暮らす私たちにとって環境に配慮した経営・企業活動を行っていく事は必須事項であり、大いなる課題です。当社は経営ビジョンにも掲げている通り環境貢献の推進と事業の両立を図り、持続的発展を続けてまいります。

## Highlight

### 社員一人ひとりが環境について考え、 環境経営を実現します

#### 循環型社会を目指した ビジネスモデル ecomo(エコモ)

当社は紙の総合商社として循環型社会を実現するべく環境経営を推進しています。事業を通じた環境貢献のひとつが「タウンecomo」です。「タウンecomo」とはスーパーの入口に古紙回収ボックスと操作パネルを設置し、買い物にきたお客様に新聞・雑誌をはじめとした古紙を入れてもらうシステムです。重さに応じてポイントがたまり、たまったポイントは店舗の商品券と交換ができます。家庭の古紙を製紙原料として回収することで循環型社会の構築につながるビジネスモデルです。ecomoシリーズには企業の機密文書を回収する「オフィス

ecomo」もあります。「オフィスecomo」については当社ホームページで紹介していますのでご覧ください。

Web [http://www.kppc.co.jp/service/environment/used\\_paper/ecomo/index.html](http://www.kppc.co.jp/service/environment/used_paper/ecomo/index.html)



古紙回収サービス「ecomo」



## 資源の循環と保護に向けて

### ○循環型社会の実現

紙は生活の必需品であるとともに、産業・文化の発展の上でもなくてはならない存在です。私たちの身の回りには新聞、雑誌、段ボールをはじめとして様々な紙製品があふれており、生活を支えています。それらの紙製品は、使用後に古紙として回収され、再び紙や板紙に生まれ変わります。国内で生産される紙の6割以上が古紙を原料にしています。紙は1度使用されたら終わりではなく、何度も使い続けることが可能です。当社の製紙原料事業本部では、ビジネスパートナーである古紙業者の協力のもとに、限りある資源を循環させ、安定的な紙の供給を目指しています。また、家庭から出る古紙を回収する「タウンecomol」をはじめとするecomolシリーズを展開し、さらなる古紙の効率的回収を進めています。

当社は、森林の育成についても、2006年よりラオス人民民主共和国で王子ホールディングス株式会社が展開する海外植林事業に参画しています。森林減少が問題となっている昨今、植林事業に参画することで製紙原料となる木材の確保と地球温暖化防止に貢献しています。

### ・リサイクルネットワーク



### ○森林認証制度

生物の多様性を守り、地球環境を良好に維持させるためには森林の持続的かつ適切な管理が必要とされます。木材を原料とした製品を販売している紙業界は、これら適切に管理された森林から供給された木材を利用することによって、その供給側の森林経営が経済的・社会的・環境的に持続していくための間接的な支援を行っています。適切な森林管理を評価し（FM認証）、この森林からもたらされた木質原料によって生産された製品を適切に管理・加工して消費者に届ける（CoC認証）。川上から川下までがそれぞれ定められた手順で管理されていることを確認し、認証する森林認証制度は、地球環境保護に向けた有効なシステムのひとつとなっています。

当社は世界的な二大認証機関（FSC®・PEFC）のCoC認証を取得し、適切に管理された森林からもたらされたパルプや紙の販売を積極的に行っています。



責任ある森林管理  
のマーク



FSC®森林認証  
(CoC認証)  
SGSHK-COC-001603  
2004年1月取得

FSC:「環境・経済・社会の観点で責任ある森林管理」を目的とした森林認証制度



PEFC:持続可能な森林管理の促進を目的とした森林認証制度



PEFC森林認証  
(CoC認証)  
SGS-PEFC/COC-0213  
2007年10月取得

## 低炭素社会の実現

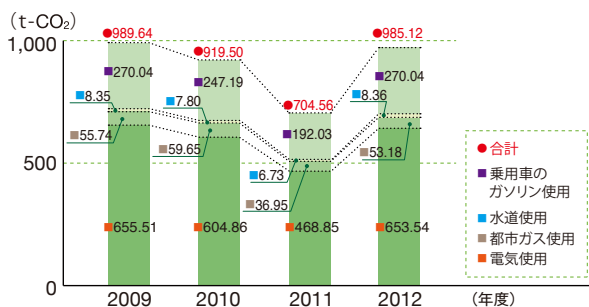
### ○事業活動に伴う環境負荷低減

事業活動に伴って消費されるエネルギーを持続的に削減するために、当社は様々な試みを行っています。そのひとつは、社員一人ひとりの負荷低減意識向上を目的として、オフィスで消費される電力、水道、ガス、そして営業車の利用により消費されるガソリン量を全てCO<sub>2</sub>に換算し、その合算量推移を「見える化」しています。負荷低減については社有車の削減、全社夏季節電強化などの具体的対策を実施し、その効果の確認を行っています。また、当社は国の定める省エネ法(エネルギー使用の合理化に関する法律)における「特定荷主」として、物流の効率化によるエネルギー使用量削減を計画し、実行しています。

#### ●オフィス活動におけるCO<sub>2</sub>排出量推移

オフィス活動におけるエネルギー使用のうち、電力・水道・ガス・営業車利用時のガソリンの使用量をCO<sub>2</sub>排出量に換算して推移を確認しています。年次の実質使用量については削減傾向となっていますが、電力事業者ごとに毎年改定されている電力のCO<sub>2</sub>排出係数が原発停止等の影響を受けて上昇傾向であることから、全体的なCO<sub>2</sub>排出量は増加傾向となっています。

#### ・エネルギー使用にかかわるCO<sub>2</sub>排出量の推移

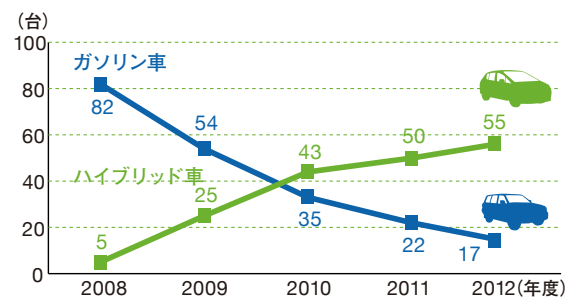


※各エネルギー使用量は月次請求書ベースの合算値。それぞれに算定省令等に基づき排出係数を積算し、CO<sub>2</sub>排出量を算出しています。電気使用分に関しては、年次で発表される電気事業者ごとの排出係数による算出を行っています。(前年度排出係数による数値洗替済)

### ○社有車の効率化

社有車を効率的に運用することでガソリンの使用減およびCO<sub>2</sub>排出量の削減を目指しています。ガソリン車からハイブリッド車への切り替えを順次行っており、2012年度は全体の76.4%がハイブリッド車になりました。車両数も2008年との比較で14%削減されています。

#### ・社有車効率化の推移



※社有車をハイブリッド車へ変更するとともに保有数を削減する

### ○夏季節電強化

2012年度も前年に引き続き、電力使用量が1年で最も多くなる夏季に、全社で節電に取り組みました。休日入館の原則禁止、ノー残業デーの徹底、夏季休業日の設定など前年同様の節電対策を行った結果、2012年度6～9月の全社累計電力使用量は2010年同期比で26.1%の削減を達成しました。

### ○屋上緑化

2010年より、ヒートアイランド現象の緩和と社内コミュニケーションの活性化を目的に本社屋上を緑化し、庭園・菜園として活用しています。季節ごとに様々な野菜や果物が収穫できる菜園を備える事で社員が定期的に屋上に足を運ぶようになり、自然と地球環境について考えるきっかけとなっています。これまで屋上菜園で収穫した野菜は昼食時に社員食堂で提供されていましたが、2013年5月にはいちごが大量に実を付けたことから、初めての社内いちご狩りを実施しました。普段業務では交流の少ない社員同士も、この活動を通してコミュニケーションが生まれ、有意義な機会となりました。



いちご狩り



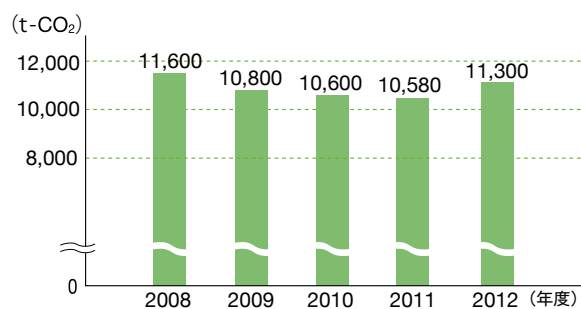
本社屋上緑化

## ○輸送面での取り組み

物流にかかわる環境負荷を低減するため、当社は従来から拠点倉庫の集約化により、輸送距離の短縮や車両の大型化による積載率の向上に努めています。また、計画配送や共同配送の推進による輸送の効率化など、物流改革に取り組んでいます。2012年度は合併により、製紙原料(古紙)の販売・配送の数量が大幅に増加し、CO<sub>2</sub>排出量は前年を上回る結果となりましたが、輸送車両の大型化が進み、結果としてエネルギー単位の減少により配送効率を上げることができました。

「特定荷主指定業者」として、配送面にかかわるCO<sub>2</sub>排出量削減への計画策定と検証に基づく年次報告を所轄官庁に提出しています。

### ・トンキロ法によるCO<sub>2</sub>排出量



※算出方法 原油換算(kl)÷販売数量(千トン)=原単位

## ○環境配慮型商品の企画と提案

環境配慮型の事業推進を目指す当社は、環境負荷低減に資する商品やビジネスの提案を積極的に行っています。グリーン購入法に適合した各種の紙の提案をはじめ、間伐材を利用した名刺等の製品や、針も糊も熱も利用しない新しい製本技術「エコ・プレスバインダー」、ナノテクノロジーを利用して焼却時のCO<sub>2</sub>排出量を極力抑えるPE素材などを紹介・提案し、お客様とともに環境負荷低減のためのビジネスモデルを構築しています。「平成の大遷宮」が行われた出雲大社に対しては当社を含む5社で共同提案を行い、



御本殿の檜皮古材



製本機「エコ・プレスバインダー」

遷宮において解体された御本殿の檜皮が混抄紙となり生まれ変わりました。また、夏の風物詩となっている仙台七夕まつりで利用された竹を製紙原料の一部として再利用する提案を行い、採用されました。環境配慮のみならず地域社会への貢献という側面もあわせ持つ企画として、注目を集めています。

## Column

### ●eco people 50 plan

当社では社員の環境に関する知識・意識の向上を目的に環境社会検定試験(通称:eco検定)の受検を推進する「eco people 50 plan」をスタートしました。「2016年までに社員の50%をeco検定合格者(エコピープル)に!」を合言葉に、イントラネットに模擬問題を掲載するなど合格率アップを目指した取り組みを行っています。2013年7月時点のエコピープルは41名で、エコピープルが2名以上いる団体はエコユニットとして活動できるため、当社はユニット名「紙ing-ecomomo」として登録しました。エコユニット同士は交流や情報交換ができるようになります。検定の勉強を通じて環境に関する正しい知識を幅広く身につけることができ、当社の取り扱う環境配慮商品についてもお客様に対して的確な説明が可能になるなど、ビジネスにおいても役立っています。



エコユニットのロゴマーク



eco検定合格社員

(当社ISO14001認証登録番号 ECO2J0078)

・2012年度の目標と実績、2013年度以降の目的と目標(3ヵ年計画)

| 環境方針/活動項目                       | 2012年度                   |               | 2013年度                 |                 |
|---------------------------------|--------------------------|---------------|------------------------|-----------------|
|                                 | 目標                       | 実績            | 目的                     | 3か年目標(2012年度対比) |
| 植林活動への参画                        | 植林事業に参画継続                | 植林事業に参画継続     | 植林事業に参画継続              | 植林事業に参画継続       |
| 古紙再資源化事業の推進                     | 古紙の仕入・販売の拡大              | 前年比158.3%達成   | 古紙の仕入・販売の拡大            | 214.3%販売拡大      |
| 環境対応紙の販売推進                      | 再生紙・無塩素漂白紙・森林認証紙の拡販      | 前年比99.3%で未達   | 再生紙・無塩素漂白紙・森林認証紙の拡販    | 13.9%販売拡大       |
| 古紙再資源化事業の推進(ecomo拡大)            | 環境配慮型商品の販売拡大             | 進捗把握          | 環境配慮型商品の販売拡大           | 進捗把握            |
| 環境配慮型商品の提案型営業活動推進(エコ・プレスバインダー)  | 製品化                      | 進捗把握          | 製品化                    | 製品化             |
| 環境配慮型商品の提案型営業活動推進(指定環境紙拡販)      | 指定環境紙の拡販                 | 前年比150.4%達成   | 指定環境紙の拡販               | 拡販維持            |
| 環境配慮型商品の提案型営業活動推進(その他商品)        | 環境配慮型商品の販売拡大             | 前年比33.8%アップ達成 | 環境配慮型商品の販売拡大           | 環境配慮型商品の販売拡大    |
| 消費エネルギーの削減(電力量)                 | 電力使用量の削減                 | 前年比97.4%で達成   | 電力使用量の削減               | 0.9%削減          |
| 消費エネルギーの削減(CO <sub>2</sub> 排出量) | CO <sub>2</sub> 排出量の実績把握 | 前年比99.42%で達成  | CO <sub>2</sub> 排出量の削減 | 1.1%削減          |
| 消費エネルギーの削減(物流)                  | 物流効率化と実績検討               | 実績把握          | 物流効率化と実績検討             | 効率化の確認          |
| グリーン購入の促進                       | グリーン購入比率アップ              | 91%達成         | グリーン購入比率アップ            | 実績把握            |
| 廃棄物の削減・分別リサイクルの促進               | 一般廃棄物リサイクル率アップ           | 69.8%達成       | 一般廃棄物リサイクル率アップ         | 0.5%アップ         |
| あらゆる資源の節約、紙製品の使用量削減             | 紙製品の使用金額削減               | 前年比0.9%アップ    | 紙製品の使用金額削減             | 2.2%削減          |
| 古紙再資源化事業の推進(オフィスecomo)          | —                        | —             | 環境配慮型商品の販売拡大           | 実績把握            |
| 古紙再資源化事業の推進(パルプ)                | —                        | —             | 森林認証パルプとFSC®木材/パルプ拡販   | 41.4%拡大         |

(2013年4月1日現在)

・内部監査員登録者数推移(単位:名)

|                 | 2008年度 | 2009年度 | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 |
|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 主任監査員<br>実務経験者数 | 27     | 29     | 30     | 25     | 29     |
| 監査員<br>実務経験者数   | 21     | 28     | 24     | 14     | 16     |
| 監査員<br>実務未経験者数  | 12     | 3      | 5      | 3      | 12     |
| 合計              | 60     | 60     | 59     | 42     | 57     |

## ステークホルダーとのコミュニケーション

### ○CSRレポート

当社のCSRへの取り組みの基本姿勢と活動報告をステークホルダーの皆様にお伝えするため、毎年発行しています。2013年は新たな試みとして社長と社員のダイアログをトップメッセージとし、分かりやすく、読みやすいCSRレポートになるよう努めました。また製本には当社で取り扱っている針も糊も熱も使用しない「エコ・プレスバインダー」を採用しており、製品見本にもなっています。



CSRレポート2013

### ○TSUNAGU

ステークホルダーと当社のコミュニケーションのための広報誌「TSUNAGU」を季刊で発行し、本社・支店の話題を幅広く発信しています。社員紹介のコーナーでは毎号様々な部署で働く社員にスポットを当て、仕事内容からプライベートな話題まで掲載することで読者とのコミュニケーションのきっかけとなっています。また紙にかかわるアーティストや職人へのインタビューを通して紙の魅力を感じていただける内容を目指しています。



広報誌「TSUNAGU」

### ○エコプロダクツ

東京ビックサイトにて開催された「エコプロダクツ2012」(会期2012年12月13日～15日)に出展しました。「エコもっとAction! プラス1」(もっとひろがる、もっと減らせる)というテーマのもと、タウンecomの全国への拡大と、エコ・プレスバインダーによる製本にかかわる資源削減を表現・展示しました。会期中はエコ・プレスバインダー卓上タイプの実演を行い、多くの来場者の注目を集めました。



エコプロダクツ2012

### ○Papermall (ペーパーモール)

当社が運営する「調べる、選べる、紙関連総合サイト<Papermall>」は1,000種類の紙を1枚から購入できるショッピングサイトであり、最新の国内外の紙業界ニュースや、紙関連の用語が調べられる情報サイトで、束見本作成サービスや名刺Web作成サービスなどのご案内の窓口にもなっています。



紙関連総合サイト「Papermall」

### ○社内展示会

東京本社ビルにて総合展示会(会期2013年2月7日～8日)を開催しました。『紙の未来予想図 Will paint a future 2013』というテーマのもと、紙製防災商品の展示をはじめ、物流改善や今後の板紙分野の考察、全国カレンダー展の分析およびレポート展示を行いました。また、紙の情報提供・販売サイト「Papermall」の紹介も行い、多くの方々にご来場いただきました。



総合展示会2013

### ○東京本社エントランス展示

2012年秋より1階のエントランススペースを活用した企画展をスタートしました。第1弾は王子ペーパーライブラリー(\*)とのコラボレーションで「かく」「よむ」「つつむ」「あそぶ」の4つの視点からみた紙の魅力と、当社の運営する紙関連総合サイト「Papermall」の紹介を行いました。第2弾はecomシリーズの実機等の展示を行いました。今後も商品やサービスの紹介をしてまいります。



\*王子ホールディングス  
本館1階にて開催の企画展

# 豊かな環境を未来へー 心を育み、持続可能な社会を築く



環境教育や環境改善活動を、スポーツを通して子どもたちに伝える「環境アスリート協会」。同協会の代表理事である柏英樹氏、陸上競技指導者で協会の活動に賛同する千葉真子氏、当社代表取締役会長・赤松恭夫が、環境貢献や次世代へつなぐ想いについて語りました。

## 豊かな自然、きれいな水や空気を 次世代へ継承していくために

**柏** 千葉さんは現役時代、世界陸上選手権でマラソンと10,000メートルでメダルを取られています。トラックとロードではどのように違いますか？

**千葉** トラック競技は接触事故などもあるので、のびのびと自然の中を走れるロードの方が好きですね。

**赤松** 以前、スコットランドのグラスゴーを訪れたら、空気がきれいで爽やかでした。その後ロンドンに寄ったところ、都会なので空気が悪くて。陸上選手の皆さんも、アメリカのボルダーで練習される方が多いのは環境が良いからですね。

**千葉** ボルダーは海外で一番好きな場所で、空気が良く、水もきれいで、緑の色も青々としています。国内でもマラソン大会などで地方に行きますが、同じように自然が豊かで、食べ物がおいしいところは多いですね。スポーツ選手は環境に敏感で、とてもデリケートだと思います。

**柏** 温暖化をはじめ環境問題は山積していますが、次世代にきれいな空気、水などをどのように引き継いでいくかが大事ですね。以前千葉さんに、協会の「アスリートと学ぶ環



境教室」にも講師として参加していただきました。子どもたちと接してどのような感想を持たれましたか？

**千葉** 運動があまり好きではなかった子が、「走ることが好きになった」と言ってくれて嬉しかったです。スポーツは身体だけでなく、心もたくましく鍛えてくれますので、ぜひ子どもたちにはスポーツに親しんでもらいたいです。環境教室も、自然豊かな山梨の富士北麓公園で実施しましたね。

**赤松** 次世代に、いかに良い環境を残していくかが私たちの使命でもあります。当社はラオスでの植林事業に携わっていますが、投資を回収するまでに20年程かかります。それでも、緑を次の世代に残していくために、企業としてやるべきことだと実感しています。

## 紙のリサイクル事業を本格化させ 循環型社会の実現に寄与する

**柏** 2012年にお子様が生まれましたが、環境について考えること、目線が変わったことなどはありましたか？

**千葉** はい、実は出産してから自宅で家庭菜園を始めました。私が小学生の時に田植えや農園作業を経験し、とても楽しかった記憶があるので、子どもと一緒に育ててみたいと思いました。育てることで、モノの大切さも実感できますから。



「健康と自然環境のために、  
スポーツを通じてできることに取り組みたい」

**赤松** 当社でも、屋上庭園でサニーレタスやじゃがいも、水菜などを育てて収穫し、社員食堂で提供しています。社員が交代で世話をし、自分たちで育てた食材を自分たちで食べるという食の循環を実践しています。子どもたちにも、良い食材をたくさん食べてほしいと思いますね。

**柏** 国際紙パルプ商事(以下KPP)さんでは、循環型社会に向けた新たな事業も進めていますね。

**赤松** スーパーなどと共同で、古紙リサイクルのポイントシステム「タウンecom」を展開しています。地域の方々が持ち寄った古新聞や古雑誌がお店で使えるポイントに換算される仕組みです。2012年からは、企業の機密文書などを安全にリサイクルする「オフィスecom」のサービスも始め、再資源化による循環型社会への貢献を推進しています。



「次世代に、きれいな空気や水を  
どのように引き継いでいくかが大事」



「社会への還元で社会と共生する企業を目指す」

## 人の心に残る文化を 守ることも社会貢献 地域・社会と共生し成長する 企業を目指す

**柏** 昨年に続き、今年もKPPさんの本社ビルのエントランスには仙台七夕飾りが飾られていますね。

**赤松** 当社子会社である仙台的鳴海屋紙商事は創業130年の老舗紙問屋で、華やかな和紙を使った七夕飾りの制作と設営を行っています。人の心に残るものを後世に残していくことも、社会貢献の一環だと考えています。

**柏** 王貞治さんも、「環境は心だ」とおっしゃっていますが、協会でも、環境を想う心を子どもたちに育んでもらうための活動を行っています。例えばゴミ拾いのイベントでは、ゴミがあるから拾うのではなく、ゴミを出さないためにどうしたらよいかを一人ひとりに考えてもらうようにしています。千葉さんが考える次世代への支援とは何ですか？

**千葉** 誰にとっても一番の幸せである「健康」について、そして大切な「自然環境」について、スポーツを通じて協力できることから一緒に取り組んでいけたらと思います。自然の中で身体を動かすことで、より身近に自然を感じることができそうですから。

**赤松** 企業としては、収益だけではなく、社会にどのように還元していくかを第一に考えることで、社会と共生する持続可能な企業に成り得ると考えています。経営ビジョンの「GIFT+1」の「+1」は環境に配慮した企業活動を指しますので、地域社会、ひいては日本、海外とどのように貢献できるのかを今後も追求していきたいですね。

環境アスリート協会… スポーツを通じて環境教育を行う一般社団法人。千葉氏のほかに王貞治氏、大林素子氏らが賛同し、校庭緑化運動や環境フォーラムなどを開催しています。  
<http://www.e-athlete.org>

**CTP**  
ダイレクト製版  
(Computer to Plate)

制作をCTP化することで廃液、  
廃棄物削減を行っています。



この用紙は、責任ある森林管理  
に配慮しています。



水なし印刷の採用により、  
水質保全、健康被害の抑制  
に配慮しています。



米ぬか油を使用したインキ  
の使用により、VOCの削減  
による水質保全、健康被害  
の抑制に配慮しています。



針金・糊・熱が不要な製本  
方法を採用し、リサイクル  
に配慮しています。



リサイクルの阻害となる資  
材を使用していません。



**国際紙パルプ商事株式会社**  
KOKUSAI PULP & PAPER CO., LTD.

〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号  
TEL (03) 3542-4111 (代) <http://www.kppc.co.jp>

本印刷物は、環境負荷低減に配慮して製作されています。

- \* 当社の目指す、資源・環境の保全と循環型社会貢献に寄与する資材の採用。
- \* 環境負荷低減に寄与する印刷工程の採用。